

施工手順



1 ストック



2 搬出



3 搬入



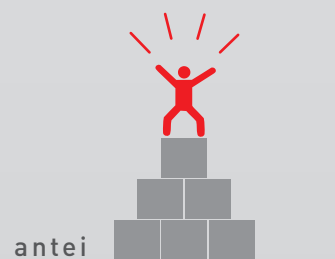
4 敷設

現場を変える。



理由 その4

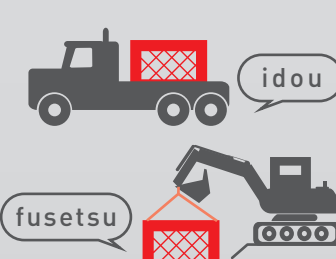
品質向上



これまで係数化できなかった充填骨材のサイズや投入量の管理を可能にし、より安定した構造を提供します。

理由 その5

敷設簡便



BOXSTONEをおくだけ。移動・設置の作業が簡便です。栗石の投入は油圧ショベル使用にて、密充填を可能にしました。

理由 その6

耐震有効性



香川大学の協力のもと行われた加震装置による実験で、耐震有効性が実証されました。

information

動画で見るBOXSTONE



ボックストーン工法のカゴ詰石手順は右記QRコードより、動画でもご確認いただけます。



ボックストーン工法のさまざまな施工事例は右記QRコードより、詳しくご紹介しています。



お問い合わせ



徳本砕石工業株式会社

〒638-0801 奈良県吉野郡大淀町草原531-6 TEL.0747-52-0775 FAX.0747-52-3362

www.tokumoto-g.com

トクモトグループ ボックストーン 検索

▼ BOXSTONE工法に関するお問い合わせはこちらまで

☎ **0747-52-0775** 📱 **090-2016-9904** (担当/杉山)

TOKUMOTO GROUP
TOKUMOTO KOUSAN / TOKUMOTO SAISEKI / SANKOH REMITECK
TOKUYOU UNYU / TOKUMOTO / NARA GREEN CLUB

新工法 石詰めふとんかごのプレキャスト化を実現

BOX



STONE

BOXSTONE ボックストーン工法



石詰ふとんかごをプレキャスト化。

従来、石詰かごは空かごを設置した後に石詰め作業をしていましたが、ボックスストーン工法は、最初から石詰された「プレキャスト石詰ふとんかご」を設置する画期的な工法になります。

この工法によれば、平地で重機による石詰作業ができるため、高い安全性の確保と大幅な労力及び時間の削減が可能となります。

ボックスストーン工法は、この点が高く評価され国交省の新技术情報提供システム (NETIS) に登録されています。

× ボックスストーン工法が、

メリットをもたらす。

こんな現場に効果を発揮します。

- ☑ ふとんかご延長の長い現場
(スケールメリットにより工期短縮効果と、間接経費の節減が期待できる)
- ☑ 出水期に施工できない上に、工期に制約のある河川工事
(出水期に事前製作が可能)
- ☑ 降雪地など工期短縮の必要の高い現場
- ☑ 騒音対策の必要な現場
(敷設時の騒音低減が期待できる)

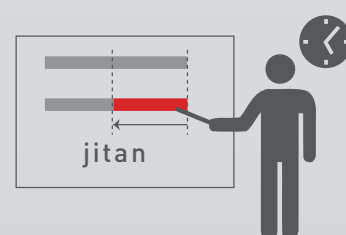
ボックスストーン工法は、NETIS 登録技術 (登録番号:KK050018-V) です。

「新技术情報提供システム (New Technology Information System)」とは、公共工事等で活用する新技术をまとめたデータベースです。国土交通省が新技术に関わる情報を一般に提供し、新技术の活用を推進する目的で運用しています。平成10年度より運用が開始され、平成13年度よりインターネットで一般にも公開され、様々な新技术の情報を誰でも容易に入手することが可能となっています。NETIS 登録技術の活用提案をすることで、公共工事の受注の際、有利となります。

- メリット1 | 総合評価方式で新技术の活用を提案した場合、加点の対象となります。
- メリット2 | 新技术の活用を提案することで、公共工事で請負業者を評価する工事成績評定で加点の対象となります。また活用した結果の効果が良好な場合はさらに加点されます。

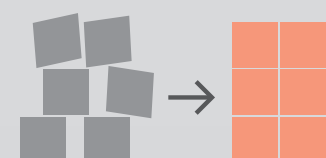
ボックスストーン工法が選ばれる、6つの理由。

理由 その1
工期短縮



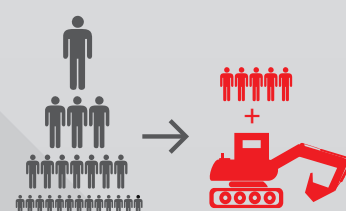
可搬性が高く、所要量の施工前ストックが可能。工期が大幅に短縮、経済性が向上します。

理由 その2
ロス削減



充填用骨材プラントで製造することにより、従来避けられなかった充填用骨材のロスが削減されます。

理由 その3
人手不足解消



BOXSTONE を敷設するだけなので、労務環境が格段に改善、熟練工への依存度を縮減しました。

施工例

河川護岸の石詰かご (じゃかご) は自然に溶け込み、見直されています。



災害の復旧

災害時にすぐに敷設、工期の短縮を可能にします。



施工例

